平成３０年度第２回四日市市総合教育会議

平成３０年１０月１７日

午前１０時　０分　開会

１　開会

～「輝く　よっかいちの子ども」実現のために～

○舘政策推進部長　それでは、皆さんお集まりいただきましたので、今日は平成３０年度第２回総合教育会議ということで開催させていただきます。

司会を私のほうで務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日でございますが、一番上の事項書にございますように、大きく４点でございます。結構ボリュームがございますので、順番に要領よく進めていきたいと思っておりますが、一番上に、まず、「輝く　よっかいちの子ども」実現のためにということで、全体の枠組みについての話、それから、前回から議論いただいております四日市市新教育プログラム、それから、教員するなら四日市プロジェクト、それから、学びの環境の充実ということになってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。１２時を目途に進めていきたいと思っております。どうぞご協力のほどよろしくお願いします。

それから、本会議は公開になってございます。今のところ傍聴者なしですね。途中から入られるかもしれませんけれども、よろしくお願いをいたします。

それでは、まず、１点目の「輝く　よっかいちの子ども」実現のためにというＡ３のカラーのペーパーですが、これの説明をよろしくお願いいたします。

○廣瀬教育監　教育監の廣瀬でございます。おはようございます。

「輝く　よっかいちの子ども」実現のためにというＡ３のペーパーをお願いいたします。

これにつきましては、前回の総合教育会議のところで新教育プログラムと教員するなら四日市プロジェクトは両輪で進めていくべきではないかというようなご意見をいただきました。それに加えて、前回の四日市市学力向上アクションプランのところでは学びの質の向上と学びの環境の充実という２本柱で進めてきた、こういった経緯もございまして、先回の教育委員会会議の中では新教育プログラムと教員するなら四日市プロジェクトと学びの環境の充実、それぞれ３本柱で「輝く　よっかいちの子ども」実現に向けて環境整備や取り組みを進めていく必要があるのではないかというところで、そういった構想を持ってはいかがかということでご意見いただきまして、今回このような形で３つの取り組みにつ

いてそれぞれが１つの柱として「輝く　よっかいちの子ども」実現に向けて取り組んでいく、こういったことを構想としてお示しをさせていただきましたので、またご協議をよろしくお願いいたします。

○舘政策推進部長　全体の構成と申しますか、枠組みと申しますか、左に新教育プログラム、右に教員のプロジェクト、それを支える環境整備、ハード面というふうな形で全体が構成されておって、それが「輝く　よっかいちの子ども」実現につながっていくんだと。一旦、全体はこういう枠組みの中で進めていって、本日はその一つ一つについてご議論いただくというふうなことになると思うんですが、この構成についてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃ、こういうふうな大きな枠組みの中で進めていくということで、まず、１点目の四日市の新教育プログラムについてということに議論を進めていきたいと思います。

２　四日市市新教育プログラムについて

○舘政策推進部長　この新教育プログラムでございますけれども、前回、まず素案的なものをご議論いただきました。その中で就学前からの系統的な学びというところがありまして、その部分については幼稚園、保育園というところが関係してきますので、今回、こども未来部からも部長と課長に出席をしていただいておりますので、よろしくお願いをいたします。

また、新たな教育課題への改善、対応のための優先的に取り組むべき６つの柱ということが示されているわけですが、具体的な新規事業についてもこれから説明をしていただきながら、教育プログラムの今後の策定に向けて具体的な議論を今日はしていきたいと思っております。

それでは、まず、資料について説明をよろしくお願いいたします。

○廣瀬教育監　四日市市新教育プログラムの策定に向けてというホッチキスでとじてあるＡ３の資料をお願いします。

１枚目の策定に向けてのところで大きな変更はございませんが、右手の上の段、３、プログラムの実施というところにつきましては、スケジュール感を少し加えさせていただきました。３２年度から市の新総合計画が実施される。そして、小学校の学習指導要領がスタートする。ここをプログラムの開始時期として進めていきたい。そのために本年度及び３１年度については準備期間としてモデル事業であるとか、推進協力校等とそれぞれの事

業で進めていきたいと考えております。こういったスケジュール感を１つ加えさせていただきました。あとについては大体同じところで表記してございます。

２ページ目が新教育プログラムの案でございますが、こちらも大きくは変わってはいないんですけれども、あえて就学前との系統的な学びの連続性を示していくイメージのために、小学校の低学年と就学前のところを１つのくくりでオレンジのグラデーションと少し緑がかったグラデーションの部分を個別に表現するのではなく、６つの柱全てに就学前と小学校低学年をかけた形で表現はさせていただいております。ここについては具体的に就学前の遊びを通した指導と小学校の教科、生活科等の指導の中、理科、算数、国語、そういった教科とのつなぎの部分を今後どうしていくのかというのはこども未来部と保育幼稚園課と協議をして具体的なところについては考えていきたいと思っています。

それから、先回いただきました子どもにつけたい知識を具体的に示すスキル集等の作成であるとか、小中学校向けの市内のいろんなイベント情報を横断的に把握して、このプログラムと関連づける。こういったことにつきましては、今後、大きな方向性を示した中で具体的な個別事業を確定していく中でそういったいただいた宿題については具体的に作成していきたいと考えてございます。

続きまして、３ページ以降ですが、プログラムマップに示しましたものについて、それぞれ発達段階別に就学前、低学年、中学年、高学年、中学校というふうな形で主な重点的な取り組みの方向性について表現してございます。１番の読む・話す・伝えるプログラムについては読解力の２０の観点を中心に取り組むわけですが、どのようなところを求めていくかという大まかな方向性についてこういった形で表現をしてございます。同様に、右が２番の論理的な思考で筋道くっきり！プログラム、算数・数学を中心とした理系の論理的思考を養うプログラムについても、こういった形で段階をもって進めていきたいと考えてございます。

４ページ目が英語についてでございます。先回いただいたご意見は後で説明をさせていただきますが、英語、それから、４ページの右が運動大好き！走・跳・投ＵＰプログラム、こちらは体力向上、スポーツに親しむ、そういったことについての示しをしてございます。

５ページ目が夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム、これはキャリア教育ということで、今なかなか子どもたちが夢や志を持って将来の自分を持てない社会的な状況もございますので、このあたりのキャリア教育のところを就学前から小学校、この辺はなかなか今まで進路選択とか進路探索というところについては直接結びつきにくいところで

はございましたが、このあたり、人間関係の基盤をしっかり形成したりしていく中で中学校以降の進路の実現に、キャリア形成につなげていける、そんなことを構想していきたいと考えてございます。

６番の四日市ならではの地域資源活用プログラムにつきましては、四日市にある地域の資源を存分に活用して本市に愛着と誇りを持てるような、そういった子どもたちを育てるとともに、持続可能な社会をつくる、そういった態度を育成していくような、ＳＤＧｓともたくさんうたわれておりますけれども、そういった人材育成にかかわるような内容で構成していきたいと考えてございます。

６ページ以降は、各プログラムの１から４に今回は限らせていただいてはおりますけれども、それぞれピックアップしてこのようなことを事業として考えておるということをご紹介させていただきます。

１つ目の読む・話す・伝えるプログラムの中は、前回もご紹介させていただきましたけれども、読解力向上にかかわる２０の観点ということで、四日市に限らず全国的にも課題になっておるんですけれども、読解力、これがないといろんな学力の基礎が高まっていかないというところで、読解力にかかわるところをピックアップして子どもたちに力をつけていく。

そのために、内容のところの図にございますとおり、２０の観点を具体的に示して、低学年、中学年、高学年、それぞれの発達段階に応じてここまでは高めていきましょうよというポイントを現場に示して、１つずつ力をつけていきたいと考えてございます。

効果としては、こういった学年の学習を通して教員が観点を意識した指導を行うことによって読解力や表現力につながる具体的な視点を明確にした学習が進められる。このことで読解力がついていくのではないかと考えています。

スケジュールについては３２年度に全校で活用できるように、来年度、研究校で実践、検証して普及できるような形に進めていきたいと考えてございます。

右側については、論理的思考で筋道くっきり！プログラムの１つの算数ですが、小学校の中高学年でつまずきが多いような単元がございますので、そこらあたりを中心に家庭でも復習できるような、または学校でも使っていただくことでよりわかりやすい、そういった動画を作成するということで、家庭学習支援「学んでＥ―ｎｅｔ！」というものの作成に取り組もうと考えてございます。学習用のホームページに本市独自のオリジナル動画、これについては子どもたちがつまずきやすい単元を中心に作成させていただきまして、配

信できるように、授業で使っていただけるようにさせていただきたいと。加えて、一番下のこにゅうどうくんの下は民間の業者さんが持っているノウハウ、これはいろんな学習教材が配信されておるわけですけれども、こういうのとタイアップしてアニメによる解説動画を配信することで、家庭でネット環境があれば学習ができるものをつくっていきたいと。また、問題を印刷して使用する。自分の力に合わせて選択できるような問題シートも一緒に載せまして学習できるようにしたいと考えてございます。課題としては、環境が整っていない子どもたちにどのようにするか。ＤＶＤを配布するであるとか、プリントを配布するだとか、さまざまな対応については、今後、研究校等とタイアップして解決していきたいと考えてございます。

効果としては、学習意欲が湧く教材を活用して、みずから学ぶ、そういったことの機会を増やしていきたいと考えてございます。

スケジュールについては、３２年度から進められるように、本年度、研究校で効果検証中でございまして、３１年度、四日市版動画を増やすとともに、研究校を増やしながら効果、検証を図っていきたいと考えてございます。

７ページでございます。７ページは「英語で地域発信！」というところで、英語でコミュニケーションｉｎ四日市プログラムの１つの形です。これは先回いただきました中学校３地区で英語スピーチコンテストも実施しているので、そのあたり英語で地域発信というようなことも絡めてはどうかというご意見もいただきました。そういったところもあって、内容の（１）と（２）を見ていただくと、（１）については小学生には自分たちの学校や自分たちの住んでいる校区を学んだ英語を使って紹介できるような、ここまで高めることができないか。それから、３番の中学校では、四日市市の紹介を中学校で学んだ全ての文法を活用して、定型文を授業で扱って生徒一人一人が紹介できる。そして、発展学習としては自分の紹介したいことをオリジナルで加えて、自分のふるさと四日市を表現できる、そんな力を高めていけるといいかなと思っています。こういったことを中心に進めまして、効果としては、日ごろ勉強している英語を使って、教科書レベル、それ以上の発展的内容にもトライできるようにつなげていけるように、そして、英語を使って楽しめるということも増やしていきたいと考えてございます。

スケジュールについてはご覧のとおりで、モデル校実施をして３２年度に実施していきたいと考えてございます。

４つ目ですが、４つ目の運動大好き！走・跳・投ＵＰプログラムの中で１つ、新体力テ

ストの活用プログラムということで、全国体力・運動能力調査がございますが、そのあたりのデータをしっかりと活用するとともに、そのためにはふだんから運動に親しめるような場を確保していく、そういったことが必要ではないかということで、内容の例でございますが、体力テストのデータを活用して分析していく中で必要な運動遊びを仕掛けていく、こんなような形で（1）としては、四日市小学校フィールド・アスレチックみたいな形で一定の教具を用意して、子どもたちが興味、関心を持てるような教具を用意して、アスレチック形式でトライできるような、そういった遊び場を設定する。チャレンジカード等も作成するんですが、定期的に記録、特に四日市の子どもたちが弱い、走る、跳ぶ、投げるであらわされる５０メートル走、立ち幅跳び、ジャベボール、こういったものを定期的に計測して、そういった数値については学校だけにとどまらず、子どもたちが市内全体で競争できるような環境をつくってみるというので、よりモチベーションが高まるような仕掛けができないかなと考えてございます。

効果としては、走・跳・投と筋力、こういったところを高めるための運動遊びを通して全体の体力向上につながるのではないかと。あと、四日市の記録を各小学校に伝えることで挑戦意欲、運動意欲を高めることができるのではないかと考えてございます。そういった仕掛けをスケジュールのとおり、３２年度で進められるような形で進めていきたいと考えてございます。

こういったことをそれぞれのプログラムマップに示した内容について、今後、教育委員会と保育幼稚園課と連携して進めていきたいと考えてございます。

あと、こちらは四日市市の乳幼児教育・保育ビジョンというのを８月に策定していただきました。これにつきましては、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園の教育保育要領が改定され、３０年度実施されておる中で、３つの園が共通のイメージを持って発達段階に応じた大事にしたいところがイメージ化できるように作成をしていただいたところです。中の見開きのここというのは口頭で言いにくいんですけど、こちらに１０の姿、幼児期の終わりに育ってほしい１０の姿ということが示されてございます。これは保育園もこども園も幼稚園も共通してそういった指針やら教育要領に示されている。このあたりの取り組み、言葉による伝え合いであるとか、数量づけ等の関心、感覚、こういったことを遊びを通しての指導の中で幼稚園、保育園、こども園は総合的にやっているわけですが、ここから教科という学習の面にどうつながっていくのか、このあたりが見えるようにできると小学校の低学年の先生も就学前の教育への理解がより深まる。それから、就学前の教

育に携わっている皆さんも小学校へのつなぎがこんなふうに働いていくということがイメージできると教育的な効果も高まるのかなと考えてございます。こういったことについて、具体的に教育委員会とこども未来部と協働して考えていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

それでは、前半のところでは、これまでの資料を少し修正したところやつけ加えたところの説明とともに、後半で来年度以降実施していくような具体的な案も示されております。来年度の予算に向けてこれから市では各部局から予算を要求する段階に今来ております。今日はこの時期ですので、そういったことも含めまして、予算編成に向けて今後議論する上で、具体的なところでいろいろご意見を頂戴できればなというふうに思っております。

それでは、何か今までの説明でご意見等がございましたら、よろしくお願いします。

○渡邉教育委員　今日は、議論としては具体的なプログラムについていろいろもんで、もうちょっとブラッシュアップしていくとかいうようなことなんですかね。

○舘政策推進部長　プログラムの全体の枠組みのところでも結構でございますし、後半にあったようなプログラムに基づいた具体の事業についても、こうやってしたらどうかというふうなご意見を頂戴できればなと、両面で。

○渡邉教育委員　６ページもそうだし、７ページもそうなんですが、全て四日市云々というのを書いていますが、例えば６ページの２０の観点、これは四日市版と言っているんだけど、全国共通のスタンダードがあって、それを四日市版として修正を加えてつくられたのか、スタンダードのものをそのままなのか、そこらのところを、２０の観点もそうですし、それから、Ｅ―ｎｅｔはまだですね。まだ試作段階だということで、これはこれでいいんじゃない。特に６ページの２０の観点ですね。

○舘政策推進部長　２０の観点ですね。これはどんなものなのか。

○髙橋指導課長　この読解力向上にかかわる２０の観点については、学習指導要領の各学年の重要な部分というものを取り出しまして、そこで、上にあります低中高、１年から６年まであるその中で重要な部分を濃い部分であらわして、どちらかというと、教師側がここをきちっと押さえないと、達成しないと次へ行けないよというか、あるいは中学年、高学年でそこが達成できていなかったらここへまた戻ってやるよという１つの指標みたいなものをきちっと見える化をして教員に示すと。それによって授業が向上していくと。教員の教師力も向上していくと。

○渡邉教育委員　四日市は前からかなりこういう面で進めてやっていますよね。だから、そういうものを踏まえてこういうふうにモディファイをしたというふうに理解していいんですか。

○舘政策推進部長　ベースは指導要領にあるけど、それを四日市なりに教師側が見やすくするとか、並べたとか、そういうことですね。

○髙橋指導課長　現在、大学の教授にここのところをどういうふうに修正なり、もう少し加えていったらいいかというようなご意見もいただいているところです。

○渡邉教育委員　めり張りのつけ方なんかのところで四日市版という特徴が見られるというようなことですかね。

○髙橋指導課長　はい。

○渡邉教育委員　じゃ、そう理解します。

　それから、もう一つついでに申しますけど、全て教科の時間の中に落とし込んでやるわけでしょう、違いますか。教科外で何か特別に新しいことを付加するということではないんでしょう。

○舘政策推進部長　時間内でね。授業の時間内でやるということ。

○渡邉教育委員　時間内の学習を指導していく中で落とし込んで、めり張りをつけていくと、そういうイメージですかね。

○髙橋指導課長　そうですね。やはり１時間の授業の中のきちっとした観点を持って教師側がやることによって授業の充実を図る。それによって子どもたちも成長していく、向上していくと。あるいは、また、意欲づけにもつながっていくというふうに考えています。

○渡邉教育委員　だから、教員の負担感が、長時間労働とか、ありますよね。だから、そういうような面から現場が混乱しないようにうまく落とし込んで、溶かし込んでいくといいますか、そういう観点がないとなかなかね。上滑りになる可能性がある気がしますのでね。

○舘政策推進部長　教師がオーバーフローするような形でどんどん事業化してもあかんやないかということですね。

○廣瀬教育監　全国学力・学習状況調査の中で特に文法にかかわる事項にちょっと弱いところがあるんです。算数だと押さえないといけないというのがわかりやすくて、ここへ戻らないとできないというのが見えやすいんですけど、国語は読み物教材なんかだと流れていってしまうというのがあって、文法事項とか、こういった読解力に関することの押さえ

が少し今まで弱かったのではないかという反省のもとにこういったものを示させてもらって、意識化を図って定着の度合いをちゃんと確かめていくということは必要でないかと思いますので、今までの授業のやり方も少し先生には変えてもらわないといけないのかなと。どっぷりと読み物に時間をかけるということではちょっと違う効果になっていくと思いますので、やり方は今後啓発していきたいと思っています。

○渡邉教育委員　わかりました。大体のイメージはよくわかりました。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

ほかはいかがでしょうか。

○豊田教育委員　２点なんですけど、今少し研究校とかで動かれている動画のものであるとか、今の読解力のところも効果検証という言葉としてはあるんですけど、具体的にどういうふうに何をはかるのかなと。どういうはかり方をして、結果がどうというのを読み取るのかなというのが１点と、それから、もう一点が英語で地域発信で自分のところをうまく表現できるというのはすごく英語力もつくかと思うんですけど、ということは、発信するためには地域のことを知らなければいけないので、英語の授業だけではなくて、ほかとの科目関連というのがどうしてもあるのかなと思うんですけど、そのあたりのタイトな授業構成の中でどういうふうにされるのかなというのを少し教えていただきたいなと。

○舘政策推進部長　まず、効果のはかり方をどう想定されているのか。

○髙橋指導課長　「学んでＥ―ｎｅｔ！」のところですけれども、１１月から１校、効果検証というようなところで実際に子どもたちに家でやってもらったりと。それから、保護者とともにやってもらったりというようなところの取り組みを進めさせていただきます。その後、これも授業でも使ったりしていただくわけなんですけれども、そこでそれぞれの子どもであったりとか、保護者であったりとか、アンケートを実施しまして、この内容がわかりやすかったとか、例えば保護者やったらこれによって子どもが家庭学習に向かう気持ちができたとか、そういうようなものを今つくっています。また、学校の先生方からもご意見を頂戴しながら、それぞれちょうど単元に入るところですので、その単元で活用した場合にどうであったかというようなところも集約して、その中で今後の「学んでＥ―ｎｅｔ！」の使い方であったりとか、そういうものを考えていきたいというふうに考えています。

それから、２点目の英語の地域発信ということにかかわってですけれども、地域教材にかかわっては、小学校では中学年から自分のまちの勉強をしていきます。低学年の生活科

においてもまち探検というようなことでやるわけですけれども、さらに中学年から高学年にかけて四日市市と、そういうようなところもやっていきますので、そういう社会科であったりとか、総合的な学習であったりとか、そういうところとリンクしながらここの授業も進めていくというようなことになります。

○豊田教育委員　効果をアンケートで聞くといったときに、例えばよかったという答えがいい答えになるのかどうかというのがあるかと思うんですけど、子どもたちはクリックしたり、楽しいというのはあるけど、学力につながっていかなきゃいけないので、そのあたり、それから、やっぱりおうちに戻って、ちょっとこれはご説明のときにこういう環境がなかなか全部の子どもさんにそぐわない場合があるかもしれない、使えない場合があるかもしれないということを今から考えるということでしたので、これの効果検証は学内というか、学校内で使われた部分に関してのみという理解でいいんですかね。

○髙橋指導課長　これはインターネット配信をしますので、パソコンでもスマホでも見ることができます。パソコンよりもスマホの所有率のほうが今は高いと思いますので、そちらで見ていただいたというようなところもアンケートの中で入れさせていただいてというようなところになります。

○豊田教育委員　環境が整っていない子どもさんへの対応は。

○髙橋指導課長　やはりその部分は学校での視聴であったりとか、ＤＶＤの貸し出しであったりとか、そういうものも含めて、それでも子どもたちに行き渡らないというようなことであれば、例えばプリントを印刷して渡して、これを家庭学習に活用するとか、そういうようなところで、それも実情としてどういうような状況かというのも検証していかなくてはならないというふうに考えています。

○舘政策推進部長　よろしいでしょうか。

○豊田教育委員　ありがとうございます。

○舘政策推進部長　ほかは。

○松崎教育委員　まず質問なんですが、７ページの新体力テスト活用プログラムの具体的な取り組み例の２の記録にチャレンジというところで、５０メートル走、立ち幅跳び、ジャベボール投げの種目について、こういうふうに今回考えているということですが、これは一番最初のプログラムマップの中のどのあたりに入ってくるものになるんでしょうか。新体力テスト低学年版のところかなと思ったんですが、ここはテニスボール投げになっていたり、距離も違っていたりするという点、このあたり、前々回のこれをいただいたとき

には就学前にも１つ枠組みをつくっていただいていたと思うんですが、ちょっとこのあたりがはっきりしないので教えていただきたいということが質問事項と、あとは感想というか、意見なんですが、そのお隣の英語の地域発信、ほんとうにいろんなプロジェクトを今回考えていただいていて、それぞれ子どもが興味を持つのであれば非常に英語の力がつくであろうものが並んでいるのでなかなかおもしろいアイデアを出していただいたなと思います。

ただ、できない子にとってこれはどうなのかなという気が正直なところあります。先生方のカリキュラムという点でも厳しいのかなと思うところと、子どもが学校で、中１なんですが、授業の話を聞いていますと、ほんとうに先生方が今でもいろんな工夫をされていて、先生役と生徒役でペアにして毎回英語力をお互いに高め合うというようなこともしていただいたりしているんですが、それでもやっぱり１割ぐらいの子はいつも２０点以下の点しかとれないというような感じで、全く英語がわからずに３年生になっているという子たちの現状を考えると、やっぱりどうしても、いわゆる先生がおっしゃったように、上滑りの部分が英語に起きないかなということが少し不安ではあります。

なので、例えば今までのプロジェクトの中の夏休みにＹＥＦの人と英会話を楽しむもの、今回そこには特に触れられていないんですが、そういった夏休みをうまく利用して勉強に困っている子たちの何か支援ができるようなプロジェクトを考えていただくとか、上の子たちはそうやっていろんなスピーチコンテストやら何やらというのはほんとうの上の一部なので、何か誰でも支援すればできるようなもの、例えば先ほどの算数のＥ―ｎｅｔを英語でやってみて、誰でもできるように家でも英語が聞けるようにとか、下の子たちを見据えてのプロジェクトというのもちょっと考えていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

あとは、それも同じく国語のところでも言えるんですが、「スピーチコンテスト“ＴＨＥ　ＢＥＮＲＯＮ”」というのも、これもやはり一部の子に関係しているということになっていますので、例えばこれは１つ維持するとして、１分間コメントが結構いろんな学校で今広がってきていますので、今読み聞かせをやっているんですけれど、それで今子どもたちにすごく関心を持ってもらっているのがビブリオバトルでして、ほんとうは５分のところをミニビブリオバトルといって２分、３分で子どもたちが自分の好きな本を紹介して、それを学校でみんながやって、一番いい子をちゃんと小学校高学年、あるいは中学校で代表として出すというきちんと下から順番に上がっていけるようなシステムのコンテストを

今後考えていったほうが、全員が参加できるという意味でよりいいのではないかなというふうに思いました。

とりあえず今思いついたところだけ、済みません。

○舘政策推進部長　まず、スポーツの種目のことはどうでしょう。

○髙橋指導課長　記録にチャレンジというところですけれども、各学期に１回ということで、１学期は新体力スポーツテストがございますので、その記録等を上げていくということ、２学期は運動会とかがありますので、そういうようなところを使ってやっていくというようなところで、あまり学校に記録、記録ということで負担にならないような形でやっていきたいというのが１つと、それと、就学前のことなんですけれども、ここのあたりは今まで取り組みをしていない部分ですので、今後、こども未来部と検討しながら取り組みを進めていけたらというふうには考えています。それが数字として出すのか、あるいは遊びの場、環境を設定して、それで子どもたちが大体２０メートルを走る中で走りたくなるような環境の設定の仕方をどういうふうにしていくかとか、そういうようなものの保育園や幼稚園の取り組みがあるわけですね。そういうものを広めていけたらというふうに、それを１つはデータベース化をしてみんなが見られるような、そんなような環境、教員が見られるような環境をとれたらなというようなもので今考えています。将来的にはそういうものもできればいいかなという思いがあって、前回はそういうようなものも出させていただいたというところです。

それから、英語で地域発信の部分でできない子どもへの支援というようなところなんですけれども、今回、先ほどもちょっと申しましたけれども、単独でこういうことだけをつくっていこうということではなくて、各教科との連携でやっていくというところで、英語が得意でない子でも社会が得意であったりとか、総合に関しての興味、関心、意欲が高いというような、みずから進んでみずから考え、課題を見つけ取り組んでいく、でも、英語が苦手というような子もいるわけですので、そういう子たちも含めてこのような取り組みを、教科を超えて総合的にやっていくことによって、子どもたちは英語に関心を示していくのではないかと。

さらに、あすなろう鉄道プロジェクトというのがあるんですけれども、この前も補佐と内部駅へ行って、ここで流すことができやんかなとか、駅長さんと話をしたりとか、いろいろしてきたんですけれども、そんなような自分の学んだことが、今までインプットしたものが大体学校内とか学校で発表する。最近は文化祭で発表したりとか、いろんなことも

地域で増えてきましたけれども、公共の場でこういうふうに発表されるというか、そういうふうにアウトプットできると、そういうような子どもたちへの、四日市は子どもたちが学んだことをアウトプットする場があるんだよと。それも公共の場にあるんだと。何かそういうようなものも１つの意欲づけになって、何か興味、関心を示して英語に取り組んでもらえたらなというようなことを思っています。

それから、夏休みの英語については、今年初めて英語キャンプというのもさせていただいて、これは小学生が対象なんですけれども、１日やったわけですが、その成果や課題も含めて検証して、そういうような取り組みを継続的にできるような、そんなようなものもまた考えていきたいというふうに思いますので、またこの中に入れられるものであればちょっと考えていきます。

○舘政策推進部長　１点目のスポーツの種類というのは、５０メートル走とか、立ち幅跳び、それから、ジャベボール投げというのが一般的に体力測定の種目ですか。

○髙橋指導課長　そうですね。ジャベボールは、普通はソフトボール投げ、中学校になるとハンドボール投げで、幼稚園とかになるとテニスボール投げと、体の大きさが違うのでボールはどんどん種類は変わっていく。

○舘政策推進部長　ジャベボールというのはテニスよりはちょっと大きいやけど、ソフトボールよりはちっちゃいと。

○髙橋指導課長　投げるとピューと音がする、そういうようなもので、今、教具という形で、子どもたちに投げるということで楽しんで投げるというものを配布しました。

○松崎教育委員　そのあたりで表記の整合性をとっていただきたい。

○髙橋指導課長　そうですね。整合性の部分ですね。

○舘政策推進部長　表記の関係ですね。ちょっと私の意見を言わせてもらうと、英語の中に出てきた内容で興味を持つということが私の子どものころにあったんですよね。それまでほかでは聞いていなかった。英語のリーダーを読んで、それで勉強して、こういうことがあるんだなと思って、それが別の教科に興味が湧くというようなことがあったような気がしたので、今おっしゃったように、英語の授業の中で四日市のことに少し触れるような内容があると、その内容で興味を持って四日市のことを調べに行くとか、あるかもわからないので、双方になると一番いいような気がしました。ちょっと私の個人的な意見を言わせてもらいました。

じゃ、よろしいでしょうか。

ほかに何か。

○加藤教育委員　今、皆さんが心配してみえるのは、具体的にこの達成度をどう評価していくかというあたりでそれぞれ懸念を持ってみえるんだと思うんです。私も同感です。ただ、今現在はこのプログラムを作成いただいた事務局の皆さんの魂とか、情熱とか、そんなのがいっぱいこもったプログラムになっていますので、これを各学校へどんな形でどう伝え、また、伝え続けていくか。先生も毎年の異動でどんどん学校は変わっていきます。５年もたてばその学校の職員がころっと変わってしまいますので、そのあたり、いかに伝え、そして、伝え続けていくかというような方法もきちっとこのプログラムを実施していく上で確立をしておいていただきたいというような気持ちもあります。だから、具体的に言えば、どんな内容をいつどこで誰が評価するかというところ、国語の２０のというのはかなり具体的になっていますので、こういったものがほかの１番から６番まで全てにある程度の姿が、具体的な子どもの姿が描かれるといいのかなと。

それと、子どもの成長って、当たり前ですけど、このように一直線にびゅーっと矢印ではいきませんので、スパイラルですし、場合によっては一遍ちょっと休憩するような、下がるような成長の仕方もしますので、そのあたりも十分含みながら達成目標の把握の方法というのを考えておってもらうといいのかなというふうに思いました。

ただ、何はともあれ、２ページのプログラムマップにございますように、６つの領域が幼から中へきちんと示されたというのは非常に価値があることやと思っています。だから、幼稚園の先生は将来のこの子たちはこんな姿で成長していくんだな、あるいは先生方の支えがこんなふうにあるんだなというのが見通せますので、非常にこれはいいプログラムができつつあるなというふうに思っていますし、こう考えたときに、今、四日市は学びの一体化という１つの組織を持っています。一方では、コミュニティスクールの組織もほぼ各校区で完成しようとしています。

したがって、学びの一体化とか、コミュニティスクールの各地域で共通するテーマがこれでできますので、例えば英語で地域を知ろうといったら、やっぱり地域の方々に地域のことをいっぱい教えてもらうような、それを英語で、ほかでは社会でもあるかわかりませんけど、英語でそれを表現していくとか、学びの一体化はまさに幼小中ですので、この柱立て、６本の柱の中で学びの一体化の推進もぜひぜひ今後は考えていただくような指導を、あるいは組織をつくっていってもらうと、いよいよプログラムが具体化したときにすごい力になってあらわれてくるのかなと思いました。ぜひそのあたり、事務局、大変でしょう

けど、魂と情熱と、そして、より具体的な姿で現場へ浸透させる手だてをとっていただくといいのかなと思いますね。よろしくお願いします。

○舘政策推進部長　激励をいただきました。

○森市長　各委員おっしゃられていますけれども、この新教育プログラム、ほんとうに充実したものになってきたなという思いでいます。あと、就学前とのつながり、連携というのも目で見て理解することもできますし、あとは心を１つにして全庁的にやっていくというところです。あと、この計画をいかに実行に移していくかというところを頑張っていただきたいなと思っています。

あと、少し細部に入っていくんですけれども、英語で地域発信というのは、やはり郷土愛を育んでいくというのは非常に大事ですので、四日市ならではの教育プログラムですので、こういった視点でやっていただくのはありがたいと思っています。英語を通じて、さまざまな教科を通じて四日市を好きになってもらえるような、そういう取り組みにつなげてもらいたいなと思っています。

あと、新体力テスト活用プログラムですけど、僕がすごくいいなと思っているのが、四日市ベスト１０を各小学校に伝えるということなんですよ。この前、教育監としゃべっていて、体力・運動能力のこのテストの上下というか、ええ悪いって、素直な体力とか運動能力だけじゃなくて、真剣に取り組むかどうかで変わってくるんですって。だから、運動能力がよくても真剣に走らなかったらタイムは悪いわけですし、いかに真剣に取り組む子どもが増えるかでこの数値は変わってくるという話を聞いて、ああ、なるほどなと思ったんですね。だから、子どもたちの意欲をかき立てるようなこういう仕組みって非常に大事やなと思うので、ちょっと追加して言うのであれば、四日市市ベスト１０じゃなくて、ベスト１００でやってほしいなと思うんですよね。今３８校あるので、ベスト１０やったら該当者がいない学校もいるわけですから、１００をやってほしいな。３，０００人弱いますから、１００でも２％、３％なので、これはすごくいいんじゃないかなと思うので。

○舘政策推進部長　身近な子がぱっと名前が載ったら、俺も頑張ろうと。

○森市長　載りたいですよね。

○加藤教育委員　校務支援ソフトの中に子どもたちの毎回のデータをどんどん放り込んでいけば、ある段階で今市長の言われるベスト１００もあるでしょうし、学校のベスト１０も随時、データは同じ時期では比べられないこともあるかもしれませんけど、各学校が今の子どもたちの状況を常に把握できるようになっていると、算数で頑張るといったらなか

なか結果がすぐには出ませんけど、走る場合ならちょっと。

○森市長　それがあるので１００をやってほしいです。ほんとうはもっとやってほしいですけど、控え目に１００と言っていますけど、おもしろいかなと思ってね。

○舘政策推進部長　１００ぐらい出していってもいいじゃない、オープンに見せて。

○森市長　各学校で教育をしているとあるんですけど、四日市全体で教育しているわけですから、何か学校の垣根を越えた一体感が出てくるとおもしろいなと。

○加藤教育委員　村一番が世界一になることですから、学校一やと思っていても上にまだ３人もいたということがありますね。

○森市長　そういうのもありますしね。よし、頑張ろうと。ぜひやってほしいですね。

○舘政策推進部長　市長から１つの例として１００ということ、何か意欲を高めるような取り組みですよね、市長の思いとしては。そこにつながるような。

○森市長　もっと増やしてもらっていいですしね。

○松崎教育委員　陸上は記録会が、三泗のがありますよね。そこで披露してもらうとか、あれが出ているところと出ていない学校と今ばらつきがあるみたいなので、上手にコラボして披露できる場があるといいなと思います。

○舘政策推進部長　陸上記録会というのは、あれは陸協……。

○森市長　基本出ているんですよね。

○松崎教育委員　全部は出ていないです。

○森市長　出られないということはあるけど、出ていないというところもあるんですか。

○髙橋指導課長　小学校の陸上記録会は三泗教育発表振興会というのがございまして、そこが主催でやっております。内容的には指導課が中心になってやっているというようなところです。

○森市長　基本出るんですよね。基本出ないといけませんよね。

○松崎教育委員　出ない方向で今進んでいると聞いたんですけど。

○森市長　そうなんですか。そんなことはないのでは。

○松崎教育委員　子どもがそうやって学校から聞いたと。先生方がやっぱりお忙しいので。

○森市長　校長先生の意向ですか。

○髙橋指導課長　そうですね。さまざまな学校の実情であったりとか、規模であったりとか、教員の数であったりとか、引率したときのことであったりとか、それから、また、この前済んだばかりなんですけれども、修学旅行が前後にあったりとか、さまざまな要因で

出ていない学校も少しあります。それはちゃんと理由も聞いてというようなところですけれども、出ていただくように、行事が重なってしまった場合はどうしても仕方がないですけど、大きな行事と修学旅行とかがどうしてもはまってしまうというか。

○森市長　いつ決まるんですか。来年度の競技会はいつ日程が決まるんですか。

○髙橋指導課長　来年度は６月に、今までは１０月に実施しておったんですが、中央緑地の工事が入りますので、６月のほんとうに工事の合間を縫ってピンポイントでやるしかないので、そこでやります。

○森市長　学校行事が決まる前に決めたらいいですよね。

○松崎教育委員　これは結構、私、保護者の立場で何回も言ったんですけど、なかなか徹底して全部の学校とはいかないって。それまでの先生方の準備も結構時間がかかりますので、お子さんを放課後に練習させたりとか、そのあたりが結構負担があるので、今後少なくなっていくだろうというふうに聞いて非常に残念だったんですけれど、何かもう少し市教育委員会からも協力体制をとってできるようになれば、両輪でそれこそうまくいくんじゃないかなと思うんですけれど、ぜひ何かまたお願いします。

○森市長　これは教育委員会からの強い指導でできないんですか、市の行事だということで。

○髙橋指導課長　そこら辺のところは管理職ともお話をさせていただきながら進めていくことになると思いますし、その中で学校の実情とか、地域の実情、そんなものも話しながらやっています。できるだけ参加の方向で話はしています。

○舘政策推進部長　スケジュールと、あと、先生方の負担とのバランスかわかりませんね。どれを優先するか。

○森市長　先生の負担は構造的な問題ですけれど、スケジュールは学校が行事を当ててくるかどうかの問題ですよね。

○葛西教育長　そうですね。そういうことも含めてこの陸上競技会に出るためにどうしていくのかと、そういう視点で各学校には話をしていく。今までもしてきておるんですけれども、ちょうどこの場で今後体力づくりをしていくと。どの学校でも同じように四日市全体として取り組んでいくんだと、総合教育会議でそういう話が出たと。そうした場合、陸上競技会、非常に今までの中でも幾つかの学校が出ていないと、そういう現実があると。それぞれの学校はそれぞれの経緯があって出られないということもあったと。だけれども、それをもう一回見直して、どうしたらここへ出て四日市全体で体力向上ができるのかと、

そういう考え方で話はしていかなきゃならないなと思っています。

○加藤教育委員　関連してですけど、結局、陸上種目を小学校版におろしてきて過去には陸上記録会というのをやってきましたので、いよいよこのプログラムに変われば、種目を５０メートル走、各学校で取り組んでいる低学年やったら５０メートル、中学年やったら８０メートル走とか、いわゆる四日市新教育プログラムの新体力テスト活用で取り組んできた種目も必ず入れて、それにあとプラスアルファが要るなら、リレーとか、そういう種目は入ってもいいですけど、これをやればわざわざ高飛びのフォームを教えて練習もして、けがをせんようにというようなこともありませんので、やっぱり各学校で共通して取り組むこのプログラムの中の種目もぜひその陸上記録会に入れていただくようにすれば、学校の負担というか、指導の負担は、もう３６５日かかってある断面での記録会になりますから、そんなに負担はかからない。ただ、行事でぶつかれば別ですけど、それでも必ず６年生は修学旅行に行くけれども、１年生から５年生までの代表選手は緑地へ集まれるというのもありますから、ぜひ種目で考えていただいたらいいんじゃないかなと思いますね。今までどおりでやると確かにいろんな学校の温度差のような取り組みの姿勢が出てきて、だから、深みが出てこないので。

○森市長　出場校が減っているというわけではないんですよね。

○髙橋指導課長　それはないですね。大体数校。

○舘政策推進部長　スケジュールの問題ですか。

○森市長　スケジュールは変えられますからね。

○舘政策推進部長　優先度ですね。

○松崎教育委員　あと、私、校長先生に当時聞いたのは、やっぱりこれは一部の子だけの行事になってしまうので、その子たちは授業を受けずに行くわけなんですね。そうすると、その子たちは授業を余分に勉強させないといけなかったりとか、一部の子だけが違う姿勢で教育の中に携わっていくのはおかしいのではないかと。それはやはり平等という意味で、全員が同じ学年の子たちが見学に行くというふうにしてしまえば、それはそれでいいと思うんですけれども、そうなるのもまた人数が多い学校は大変だしということで、いろんな理由があってこれはなくなっていったんだというふうにおっしゃっていました。

○森市長　そんなことはない、じゃ、やめるべきじゃないですか、競技会自体を。

○松崎教育委員　これがこんなに話題になるとは思いませんでしたけど。

○森市長　みんなが頑張ってほしいということですよね。

○松崎教育委員　そうですね。

○葛西教育長　今は平日でやっていますけど、例えば平日で今はやっていますけれども、これを例えば土曜日だとか、日曜日だとか、そういうふうなところで設定できないのかと、そうすれば、引率の問題については保護者の方にお願いするだとか、そういう方法も出てくるでしょうし、そういうことも含めてこれは検討をしていきたいなと思います。

○森市長　学校の行事が決まるのっていつぐらいですか。３月ぐらいですか。４月ぐらいですか。

○葛西教**育長**　学校の行事は１２月からもう検討を始めています。

○森市長　その検討前に日を決めてもらっていいですか。行事が重なるという理由で休むはなしにしましょうよ。

○葛西教育長　そうですね。それはきちっと計画的にやればできることですからね。

○森市長　人員が足りないんだったら補助すればいいですよね。ぜひ予算上程で。

○松崎教育委員　できる子にとっては１年生で入ったときから非常に楽しみにしていた行事だったんですよ。それを学校側からもう今年からなしにしましたと一方的に言われてしまったので、非常にみんなが残念がっていたので、これは復活させてもらえればありがたいなと思います。全校が一応参加というふうに、任意でしたので。

○舘政策推進部長　そういう調整をする努力をするようにお願いしたいと思います。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、いろいろご意見を頂戴しました。激励もいただきました。市長から具体的な提案もいただきました。それらを全て一度事務局でも受けとめまして、必要なところは来年度の予算に向けて調整していきたいと思います。

３　教員するなら四日市プロジェクトについて

～子どもと先生の笑顔あふれる学校づくり～

○舘政策推進部長　それでは、事項書の３、教員するなら四日市プロジェクトということでございます。

これについては、昨年度からこの総合教育会議において教員の負担軽減ということでご意見を頂戴しながら議論を進めてまいりました。今年度、ご承知のように、学校業務アシスタント、それから、部活動協力員をモデル校に配置しまして、その活用状況とか、負担軽減が実際どうなったかといったところ、その辺を調査、効果検証をしてまいっておりま

す。さらに来年度についてこれを本格実施していくわけでございますので、そのあたりを中心にご議論をいただければなというふうに思います。

資料説明をお願いしたいと思います。

○廣瀬教育監　教員するなら四日市プロジェクト、子どもと先生の笑顔あふれる学校づくりのＡ３の資料をお願いします。

１枚目についてはこれまでのとおりで変わってございませんので、はしょっていきたいと思います。

２ページ目、少し下の学校業務改善検討会、妹尾先生をアドバイザーとして検討会を開いておるわけですが、９月に当初予定しておりましたが、データの蓄積が十分ではないということでありますので、１２月に時期を変えて３０年度の総括に近い形で検討を加えていきたいと考えておりますので、ここは少し時期を変更させていただいたところです。

それから、３ページ目でございます。

こちらは前回のご意見をいただきまして少し見やすくはさせていただきました。アシスタントの配置については、大規模、中規模、小規模でごらんの学校６校でモデル事業を進めております。業務内容についてどれだけ時間をかけているのかわかるようにということでしたので、割合で示させていただきました。ごらんのとおり、青が書類の印刷、赤がデータ入力、緑の部分がその他、多様な配布物の仕分けであるとか、授業準備の一部お手伝い、そういったことも含めて大きくはその３つでアシスタントが業務を行っているということが見てとれます。

そして、もう一つ、右側ですが、具体的に業務軽減、時間外勤務時間が単純にどのように削減されたのかというところで、前回は６月の資料を載せておりましたが、今回は２９年９月と本年度の９月を比較してみました。一番下のアシスタント未導入校の縮減率、小学校で１６．５％、中学校で２１．８％でありましたが、アシスタント導入校においては、全てではございませんが、小学校１６．５に対して２０％を超えるような八郷西小、常磐小というような形で縮減率があらわれております。また、中学校は南中、山手中で３０％を超えるような縮減率があらわれておりますので、一定効果はあったのかなと考えております。ただ、これについては各学校のほかの時間外縮減の取り組み、特に中学校においては部活動の休養日を週２回実施するということで四日市市においては徹底がなされていることで削減がされたのかなと思っております。済みません、先ほどのカラーのグラフも９月までのデータを足し込んだ結果になってございます。

それから、４ページでございます。

４ページは、せっかくアシスタントを配置したのに使っていない人がいるが、使っていないのはどういう状況なんですかということにつきまして資料を載せさせていただきました。一番上の表のとおり、アシスタントの依頼状況、小規模の学校については１００％どの教員も直接依頼ができているという状況です。やはり学校規模が大きくなるにつれて、常磐小、山手中のような大規模校では個人の仕事を依頼するタイミングがなかなか難しいと。学年や学校の仕事の発注でもアシスタントさんが手いっぱいなので、自分の仕事について個別に頼むことはなかなかできないというような状況がございます。

（３）にまとめてございますが、大規模校の業務は１回が大量であるためにそういった学年、学校単位の依頼にとどまっていると。勤務が午前中なので頼む時間に制約がある。つまり下の働き方にも関連するわけですが、午前中に仕事をしてもらおうと思うと前日に用意をしていないと発注できないというところで、なかなかそういった働き方にシフトできない教員もおりますので、みずからの仕事の進め方も変えないといけないというようなこともありますので、このあたりは計画的に仕事ができるように教員自身も意識を変えていかなくてはならないのかなと思っています。

あと、モデル校についてはこのアシスタントを活用するためのマニュアルについていろいろ考えてもらっております。４ページの右側については具体的に写真入りで、限られた４時間という時間を効果的に活用するためにどうしたらええのかという工夫をしていただいています。座席の工夫であったり、依頼票をどう活用するか、そして、業務を見える化することでここやったらすいているから頼めるなというのを見えやすくしたり、さまざまな工夫をしていただいておりますので、これについては次年度予算をいただきまして、全校展開になったときはこういったモデル校の効果的な取り組みが４月からスタートできるような形で周知していきたいと考えてございます。

５ページについては３１年度の方向性でございますが、アシスタントについては全校配置をしていく。そのための手だてとして、先ほどのマニュアル化を図って効率的な取り組みになるように、それから、教員の意識の改革、それから、どの業務を切り離すのかというのを１２月の検討会では整理をかけていきたいと考えてございます。

続いて、６ページでございますが、こちらは校務支援システムでございますが、これはこれまでの資料を見やすくさせていただいたというところでございます。１番のシステムのイメージは、市のネットワークの中に校務支援のサーバーを置いて、ネットワーク内に

おることでセキュリティーを確保する。それから、市と学校が連動することで情報の連携が簡単にできるようにしたいと思っています。導入機能の中ではまだ先ほども体力テストのデータもということで、それも載せていかなくてはいけないんですけれども、その帳票についてどうするかは今も検討して予算の積算も入っています。この間の教育新聞に、指導要録が通知表で兼ねられるようにするような検討を中教審がやっているということで、このあたりは今後も変わっていくのかなというふうに思っています。ただ、時間外の削減に当たっては、出退勤の管理についてはここに入れていきたいと。今そういった業者とどんな導入機能を入れていけるのかについては協議をしています。また、導入機能のオーダーによって予算も今の概算よりアップしてしまうこともあると思いますが、整理をかけながら必要な機能を入れられるように取り組んでいきたいと思っています。

３番の効果についてはこれまでのとおりです。業務の標準化、さまざまに各校が独自で開発していたフォームではなく統一されるので、どこの学校へ変わっても同じ処理ができるということ、それから、セキュリティーが高い、こういったことで業務軽減ができる。特に保健の養護教諭については膨大な健康に関するデータの処理をしておりますので、そこはかなり助けることはできる。その分、子どもに接する時間が確保できるのではないかと考えています。参考例として、業務負担の時間減については大阪と北海道がありますが、大阪府は１人１台パソコンがなかった状態からの縮減状況、北海道はもともと本市と同じように１人１台パソコンが入った後の縮減状況ですので、効果が期待できるのかなと考えております。運用に当たっては、３２年度、新しい学習指導要領の実施によるスタートにしたいと思っておりますので、ぜひ予算をいただいて３１年度１０月から試験運用ができて３２年４月に一斉にスタートできるようにしたいと考えてございます。

最後、７ページは部活動協力員の取り組みでございます。こちらについても９月までのデータを足し込んだものを見える化しました。左が２番、部活動協力員配置による働き方の変化についてですが、部活動協力員が入ったときに想定される勤務時間の縮減、これも想定したもので、こんなぐらい縮減されているのではないかというようなことをグラフで示しました。

朝明中学校が６月に突出しているのは、教育相談という各担任が全ての子どもたちと相談活動をする、この時期を通常はなかなか安全管理のために部活動の時間を少し短くしたりして対応しないといけないんですが、協力員を配置することで安心して顧問は相談に入れるし、子どもたちも安全を確保しながら部活動ができる。それから、５月も少し高いの

は家庭訪問時期にこういった協力員さんの依頼をさせてもらっているというところです。朝明中においては学校が大きいので、複数顧問制ですので２人、３人という形でおるので、三者懇、家庭訪問、教育相談というときに活用されているという状況でございます。

楠中学校が平均して１９分と低いのは、これは陸上部の顧問のサポートみたいな形で入ってございましたので、どちらかというと、部活指導員的な働きですので、その効果の影響というのは限られた人にしか波及していないというところです。ただ、個人の顧問の業務を助けることができるので、業務バランス、下に確保された時間で行った業務については多岐にわたって全ての業務がこの配置によって助かっているというような状況で、さまざまな色の円グラフが出ていることがわかります。

橋北中学校は小規模で１人顧問というような状態もございますので、どの月を問わず来てもらうとありがたい、自分の仕事ができるという形で多く時間が生まれております。特に４月、９月というような学期の立ち上げのときにさまざまな会議であったり、準備であったり、こういったところの助けになっているというのがデータでも示すことができております。

今後の課題ですけれども、右の下、方向性については、こういったデータから比較的小規模な学校への協力員の配置はものすごい効果を生むのではないかということで、現在のところ、生徒数３００人以下の学校、１人顧問になってしまうような学校のところに厚く配置をしていきたいと考えてございます。また、一番下のグラフは本市のデータではございませんが、日本スポーツ協会がとったアンケート、一番右、赤の点線囲みのところ、体育科の教師でないし、その種目の運動経験もないという人の不安は４０％近く、専門的な指導力が自分にはないのではないかという不安をお持ちであると。反面、経験のある者、体育科の者については、忙し過ぎてクラブに行けやへんやないかというのが悩みになっておりますので、このあたりのギャップは大きいですので、指導員も一定必要ではないかと。ただ、全ての経験のない者に指導員をつけるとなると種目も多岐にわたって数も大変多うございます。それだけの人材がおるかというのも難しいところがございますので、会計年度職員の意向にも伴ってそのあたりまで少し研究は続けさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

それでは、これは来年度からいよいよ本格実施していくものになります。その点も含め

てご意見を頂戴できればと思いますが、よろしくお願いいたします。

○森市長　３ページの業務アシスタントのところの時間外の削減なんですけど、私、ちょっと驚いたのがアシスタント未導入校でも小学校で１６．５減っておるとか、中学校はクラブがあるのでその辺まではわかりませんけど、全般的に意識が浸透しているのかなというのをすごく思いましたね。毎月とっているんですか、データは。

○海戸田学校教育課長　毎月とっています。

○森市長　９月にしたのはより効果があらわれてきているからということですか。

○海戸田学校教育課長　そういうわけでもないですが、一番近い数値をということです。

○森市長　何で保々中はこんなに縮減率が少ないんですかね。校長先生の問題ですか。でも、校長先生の意識で大分変わりますよね、学校って。だから、平均２１．８、何かデータが出るとわかっているのに、もっとやってもらったらよかったのにな。

○相馬人権・同和教育課長　保々中の縮減率がほかと比べて８％、ちょっと低いわけですけれども、保々中学校はご存じのように同和地区を有する学校でして、毎年１０月の最終土曜日あたりに人権劇の発表をしています。それに伴って１学期、夏休み、２学期に先生方がかなりかかわっていただいています。この人権劇の子どもたちへの指導とか、あるいはそれに伴って子どもたちも揺れることもありますので、それに伴う家庭訪問とか、あるいは学校へ戻られて先生方が協議をされるというようなことがありますので、９月だけではない部分もありますけれども、人権劇にかかわったところとか、やっぱり地域特有の行事、取り組みがありますので、そのあたりでほかの２中学校とは縮減率の下がりが異なるということです。

以上でございます。

○森市長　例年やっている劇ですよね。だから、それ以外の部分もあまり減っていないということですね。

○舘政策推進部長　ほかの月がどうかやね。

○森市長　そういうような部分とそうじゃない部分があって、この部分の減りも低いということですよね。

○舘政策推進部長　９月、１０月はそれがあってなかなか削減ができないのかもわからんけれども、ほかの月は、保々中は、その辺、わかりますか。

○海戸田学校教育課長　時間数自体はこの９月はちょっと多いです。でも、縮減率はほかの月も大体同じような程度でございます。

○舘政策推進部長　じゃ、全体的にちょっと減りも低いんですね。

○森市長　モデル校なので、これ、数字が出ないと導入する意味がないという結論になっちゃうので、頑張ってほしいというのはありますし、あと、ほかの学校がどれぐらい減っているかというのを校長先生って共有してもらっていますか。

○海戸田学校教育課長　個々に学校別にデータを毎月送っています。

○森市長　ほかの学校も。

○海戸田学校教育課長　はい。学校名は出していませんが、自分の位置はわかりますので、どれぐらいの位置にいるのかというような位置は各学校長はわかるようにしていますし、個人のデータも全部ランキングして、高い者は個別に指導するように、名前は出していませんが、自分の学校の人はわかるので、何時間か、どこにいるのかは。個別に指導するように徹底はしております。

○松崎教育委員　そうしますと、大中小の規模でアシスタントをつける、つけないというよりは、学校のそれぞれの状況に応じて、ここは１人、もっと増やすとか考えていくということも考えていったほうがいいんじゃないかなと思ったんですけど、例えば保々でしたらやっぱりアシスタントも中規模であってももっと増やしていくとか、それぞれによって事情は違うと思いますので。

○葛西教育長　そうですね。今おっしゃっていただいたように、今年が小規模校、中規模校、大規模校で試行してみたと。その結果で全体的にどの規模でも有効であると、全体的には。特に大規模校では効果があるんじゃないかなということが出てきたと。ただ、今指摘されたように、やっぱりそれぞれの特性があると。やっぱりそういう特性も見てさらにどうしていくか。あるいは、大規模校は来年度１名つけるわけですけれども、それで全ての先生が活用できるのか。今は学年だけのことになっていますので、個人の部分がやっぱり軽減になっていないという課題もありますので、これは今後も引き続き検討をしていくべき課題かなと思います。

○豊田教育委員　その中で、例えば教員の意識改革というのが再三出るんですけれども、例えばアシスタントの方に働いていただく時間を少し変えるとかということでも多少変わるのかとか、いつが有効なのかというのが、今は全部時間が決まって午前中配置なんですかね。そこが今までのデータでは全然読めないのでわからないですけど、業務がどういうふうに動いていて、スタディーしたときに。そこの中でここで多分出てくると。もちろん教員たちがちゃんとやらなきゃいけないけど、意識を変えるだけでも、物理的にできない

こともあるとすれば、そこを補塡するようなことも考えながらの配置であったり、業務の割り振りであったりとかというのもあるのかなとか、それから、これはちょっと難しいかもわからないですけど、学校を１年間通したときにここにもうちょっといてほしいとか、ここはちょっと手薄でもいいかなみたいな、そんなことが、それは難しいのはよくわかるんですけど、もうちょっと変わるのかなとかということであったり、あと１点、質問なんですけど、業務アシスタントのことは全部周知は十分されているということなんですよね、モデル校の先生方お一人お一人には。

○舘政策推進部長　それは大前提ですよね。

○海戸田学校教育課長　周知はされています。

○豊田教育委員　見える化していただいているのであれなのかなとは思うんですけど、ちょっと言葉は悪いですけど、私は新人なので言いにくいみたいなこととかというような偏りとかというのは。

○舘政策推進部長　中でね。

○豊田教育委員　負担感は違ったりとかというのが多少あるかなと。新人の方のほうが負担感が多いので、新しい職場の中でいろいろ。なので、そこがもっと緩和されていくと随分働く中で教員たちの気持ちがついてくるのが変わるのかなというふうに思ったりもするので、どういう時間帯にどういう人の配置が要るかとか、気持ち、単純を切りかえて、ここを切り分けよというだけではなくてというようなことも含めてまた考えてください。

○海戸田学校教育課長　来年度のマニュアルづくりの中でマネジメントの方法も具体的にそういった部分も入れていきたいと思っています。

○加藤教育委員　要は、この制度を導入しようとしている目的を常に学校で考えていただかないと、実際に個々に頼む時間がないから自分でやったほうが早いよなんて、こういう議論で終わってしまうと全く意味がないので、やはり長時間労働の縮減であったり、先生方が本来の子どもの指導というところへもっと時間を割いていただけるために、クラブ協力員であれ、配置をしているわけですので、モデル校では実践はされているとは思いますけど、やっぱり仕事内容の洗い出しと絶対的に足らない労働力のところへ４時間投入しないと、早く帰っていただくとか、あるいは笑顔あふれる学校づくりには向いていきませんので、もっともっと学校で洗い出しというのか、ほんとうに我々の働き方を変えようというところへ来ないと、それでも絶対的に足らない学校には集中的に人を入れましょうと。

それと、もう一つ、これはあまり大きな声では言えないかわかりませんけど、先生方の

個々の力量によっても随分と学校運営というのは変わってまいりますので、今ちょっと話題になっていました今年新採の先生が３名も入るとか、はっきりと新採３人の対応に４時間突っ込みましょうというぐらいの裁量があってこの制度を導入しないと、一般的に業務量のプラス部分は１０ですから１人です、ここは５ですからもう行きませんなんてやるのもなかなかしゃくし定規にはいかないなと思いますので、やっぱり学校でほんとうに校長先生以下職員が本来子どもに向き合う時間を確保して、笑顔あふれる学校づくりのためにどれだけ助けてもらうとありがたいのかというところの議論を常にしていないと、学校教育課だけが頑張って、こうですよ、ああですよ、マニュアルもつくりましたよ、こうやって使ってくださいと言うても、やっぱり個々の学校によってその必要度なり、あるいは効果のほどは随分と違いますので、ただ、ありがたいのはこんな人的配置が可能になっている四日市というのはそもそもすごいので、そこへきちっと戻りながら、原理原則の議論がいつもされていないと形だけで終わってしまって、せっかく膨大な予算を投入いただいてもなかなか効果があらわれないということだってありますので、そのあたり、ほんとうに、やっぱり意識の問題になるんですかね。

○舘政策推進部長　予算の議論をしておるときに、そういう業務アシスタントをもし置いたとしても、ほんとうにちゃんと先生方がその方に仕事を任せていけるのかというのを非常に我々行政マンのほうは危惧しました、当時。置いても先生が自分の仕事で取り込んでしまってなかなか仕事をというのがあって、じゃ、モデル校で一回やって、ほんとうに仕事を頼んでもらえるのかなと。一応モデル校でやったらそれぞれのアシスタントの方々はきちんと仕事量もあってやれたと。こういう実績に基づいて来年度は一回全体的にやるんですよ。ただ、今おっしゃられたような偏りもひょっとしたらあるかわからんし、学校によっても違うところがあるので、これは引き続き検証が必要ですね。

○加藤教育委員　アシスタントの方そのものの質にもよりますよね。

○舘政策推進部長　それもまたありますよね。そこまでいくとまた広がるんですが、いずれにしても、やっぱり一律にいく、今回はまず一律にいくんですよね、来年度は。いくんですが、またもうちょっとより分析して、場合によっては少し柔軟な対応をしていかなあかんかもわかりませんね。

○加藤教育委員　柔軟であればあるほどいいと思います、私は。その学校にマッチした配置の仕方というのがあるはずですから。

○舘政策推進部長　アシスタントの方にお手伝いいただく仕事は十分ありそうだと。それ

もようわかったと。それで先生の負担も減りそうだと。だから、その分、子どもに向かっていただけそうだということはちょっと見えたかなというところですね。

○加藤教育委員　人材不足の世の中でほんとうに我々が求める質と量をどんなふうに確保していくかという大きな問題になっていますし、ＰＴＡの親御さんで専業主婦をしていただいている方に気楽に学校に入ってもらおうと思うと、それこそ守秘義務の問題であるとか、テスト問題を知ってもうたらどうなるのとか、そんな問題も出てきますので、何をどう依頼しながら学校で活用していくかというのはまだまだ議論の余地がございますね。

○森市長　先生の勤務状況ですけど、中学校って担任を持っている先生と持っていない先生がいらっしゃるでしょう。持っている先生は絶対に朝何かやるんですよね。朝礼みたいなのをやっているんでしたっけ。

○加藤教育委員　ホームルームというやつですね。

○森市長　持っていない先生は朝は必ずしもいなくてもいいわけですか。そういうわけでもない。

○加藤教育委員　学校によっていろいろやと思います。

○森市長　学校によっていろいろですか。僕、わからないので聞いているんですけど、時差出勤なんかもできんのかな。

○海戸田学校教育課長　大体全員動いています。各教室へ担任が行って、ほかの人たちは靴箱へ見に行ったり、登校、指導主事に欠席確認をしに行ったりとか、座っていることはないと思います。

○森市長　必ずしもそこにおらな、時差出勤のことは県になりますか。そういうのは市がやることではないんですか。

○舘政策推進部長　高校やともうちょっと……。

○森市長　クラブのある人は……。やればええのと違うかなと思うね。

○舘政策推進部長　高校やとより担任と教科の先生と大分差があるような気がしますもんね、我々の今までの昔のイメージですけど。今はどうか知りませんけど。そうすると、時差出勤というのもあってもええかも。

○森市長　市役所でもやろうということで率先して進めていくので。

○廣瀬教育監　小学校も中学校もそうなんですけど、学校に来ていない子がいるのかいないのかという把握をまずしないといけないので、教室で出欠をとっておる間に、先ほど海戸田が申したように、げた箱へ行って、上履きに変えていない子がどれだけいるか数えて

おるんですわ。そこで合わせてすぐ連絡をするとか、どうして休んでいるのと、欠席連絡がなかったら確認しないといけないので、そういった業務は朝から大体全員で担ってやっていますので、なかなか時差出席、夜会議に行った人はちょっと明日遅くなってもいいですかと言ったらええよと言うことはありますけど、皆さん、そういう協力体制でやっていただいておるので、なかなか皆さん、朝から働いてもらっています。

○豊田教育委員　そういう靴箱の確認やったら別に教員じゃなくてもできそうな、アシスタントの方に朝毎回確認してもらうと。報告はどこへするというのが決まっていれば。

○舘政策推進部長　顔認証ができてくると、これから幼稚園なんかでありますよね。

○加藤教育委員　学校の必要度というのは違うんですよね。それを一般の教員から業務として外してやれば、かなりまたほかの部分で発揮をいただけるというんやったら、今豊田委員がおっしゃるように、げた箱の確認はアシスタントの仕事というのもありかわかりませんね。

○舘政策推進部長　将来、ありますよ。カメラで入り口で撮っておけば、誰が来た、誰が来た、誰が来たとなるかもしれませんね。それはもうちょっと先かもしれません。ただ、そういう時差出勤みたいなことも、市長がおっしゃるように、どこかに頭へ入れておいて、そういうことができるならやっていったらどうかということで。

○加藤教育委員　確認電話までアシスタントに任すということもありかもわかりませんので。

○舘政策推進部長　それも少し頭に入れていただきながら、あと、どうでしょう、校務支援システムとかのところはよろしいですか。もう来年度、運用の準備をして、３２年度からは本格実施していこうじゃないかと。

○加藤教育委員　大体このプログラムはできつつあるんですか。全体の形は、フレームというのか。

○川邉教育支援課長　中に入れる導入予定機能は各担当課と話をさせていただいて、今およそ詰めさせています。一つ一つの帳票に対して予算がかかってまいりますので、それを何を入れるかを今精査して、検討委員会も３回ほどさせていただきましたので、あと、詰めの段階をしているところでございます。

以上でございます。

○加藤教育委員　当然これを使い出して使い勝手のいいように改善等はやっていけるんですね。

○川邉教育支援課長　それはできます。

○豊田教育委員　一度入れるとなかなか次に変えるというのは難しいので、ちょっとお金がかかってもいいものを入れていただきたいなと私は個人的には思うんですけれども。

○加藤教育委員　すき間のあるシステムね、ほんとうに。データが増えてもいけるよとか、汎用性を増やすとか。

○豊田教育委員　一斉に入れるのでやっぱりいいものをしっかりと入れて、意味のあるシステムで動かしてほしいなと思います。

○舘政策推進部長　その辺は検討委員会か何かやってもらったんですね。その辺はぜひ気をつけていただきたいと思います。

　あと、部活はどうでしょうか。

○松崎教育委員　協力員の人材は今後大丈夫なんですか。

○髙橋指導課長　胸を張って、はいとはなかなか言えない部分もありますが、学校教育と人事関係になると思います。再任用教員とか、退職された方でというのが中心になってくるというふうに思います。そこら辺のところは調整をしながらやっていきたいなというふうに考えています。

○豊田教育委員　最後のところなんですけど、負担感がある教員が何%かかなり高い比率であるというのが、四日市のデータというのはないんですか。

○髙橋指導課長　これも一昨日、部活動検討委員会というのを実施しました。そこで生徒、それから、保護者、教員というところでアンケートをとって、部活動のやりがいであったりとか、ここにある専門外で経験なしとか、そんなようなものについてはちょっとデータとして出てくるような、そんなようなものをとるように今検討しております。

○舘政策推進部長　そのデータをとると。

○加藤教育委員　難しいんですよね。毎年、職員構成が変わりますから、今年は担当外を持っていても、来年になったらまた専門が来てもらって自分の本来の担当に戻れるということもありますので、先生がころころころころかわりますから、なかなかこれは……。

○豊田教育委員　でも、多分、全国調査も定点ですよね、おそらく。なので、そういう意味では極端な……。どうなんだろう。もちろん流動的なデータになって、今年はこっちが多いけど、今年はこっちというのはあるとは思うんですけど、全国でこれだけ負担なので本市もというのであれば、本市のデータが定点であってもあるほうがわかりやすいかなという気がして。

○舘政策推進部長　そういうのをとれたらとってもらって、部活動はやっぱりこれまでも内部で議論しておってもなかなか一遍に解決しそうにないんですね。種目も多いし、いろいろあって、指導員になってくると、特に。

○葛西教育長　そうですね。それと、もう一つは、通常の月曜から金曜日、これは学校なんですよね。土日に試合があるわけなんです。これが中体連でやるもの、これはもう３大会ということで限定されているんですけれども、各協会、それぞれの協会がありますが、協会が主催していくと、そういうふうな大会があるわけですよね。それが月に１回、あるいは２回とか、そういうふうなものがあると。そうすると、土曜日、日曜日に試合があると出ていかなきゃならない。３連休の場合だと、やっぱり日月に試合が組まれると土曜日はやっぱり体を動かしていないと子どもがけがをする。だから、土日月と３日連続でどうしても部活動に出てしまうと。もちろんそういう試合があることでより多くの子どもたちが試合に出られて、やったと、そういうふうな成就感も得られますので、大会をそれこそ絞っていくということは今は難しいと、そんな現状もあります。

ですから、この部活動の問題というのは、それこそ今部長が言われたように、多種目あり、それぞれ学校によっても実態がかなり違うと。そういう問題と、もう一つは、協会の試合があると。そこへやっぱり子どもたちも参加させてやりたい。また、そこで活躍している先生は協会の役員としても運営に当たったりだとか、いろんな調整も当たったりすると。そういう課題も徐々にはっきりしてくるのではないかなと思っています。

ただ、今、学校でやらなきゃならないのはガイドラインに沿って、例えば土日に練習試合、あるいは試合をしたら、ウイークデーの中で必ず２日、子どもも休むし、先生もそこのところは違う仕事ができるようにすると。これを徹底してやらせていくことが一番今の段階では求められていると。将来のことも見据えて検討していかなきゃならないなというようなことを思います。もちろん部活動の部の数、これも少子化になってきていますので、これの検討についてもやっていかないことには。

○舘政策推進部長　部活についてはそういうソフトの施策というか、そっちと含めてやっていかんと、合わせていかんと先生の負担はほんとうに減っていかんなというところですね。来年度はまだ本格実施ということにはいきませんけれども、こっちは少しずつ協力員を増やしながら、いい方向性が、国の制度もありますけど、もうちょっと来年度以降も議論していかないといけないかなという思いがございます。

それでは、時間もちょっと押してまいりましたが、この３項目め、よろしいですか。

それでは、いただいたご意見を頂戴しながら、来年度、一部本格実施していくところも含めて予算をきちんととっていけるように頑張っていきたいと思います。

４　学びの環境の充実に向けて

○舘政策推進部長　それでは、最後、学びの環境の充実に向けてというところでございます。

これまで重点事業というか、重点施策として普通教室のエアコンとか、中学校の給食ということで設計等を進めているところでございますけれども、先ほどの教育プログラムとか、教員するなら四日市プロジェクト、これらの質の向上をしていくためにはハード面の整備というのが重要になってきます。今、次期総合計画を策定中でもございますので、それも視野に入れながら環境の充実に向けて考えていかなきゃなりませんので、現時点でのいろいろな取り組みも含めて資料を簡単に説明していただきたいと思います。

○廣瀬教育監　それでは、学びの環境の充実に向けて、資料、Ａ３をお願いします。

まずはどういった視点でまとめているかというところで、１ページ、左上の点線の枠囲みですが、計画的な改修や修繕による学校施設の長寿命化、施設機能の維持管理、こういった観点、それから、多様な教育活動や新しい時代のニーズへの対応、それから、安全・安心な教育環境の充実という３点で現状の環境の充実についての取り組みをまとめてみました。

１つ目は、今の総合計画期間中、これまでどのような整備を進めてきたのかというところについて、１ページ目の右側、上が決算額の推移で、棒グラフで示させていただいたものです。下が金額で、数字で内訳を示させていただきました。このように２３年度から２９年度にかけて学校の整備を進めてきたところでございます。

２ページ目でございますが、２ページ目は先ほどの３つの観点に沿って整理をさせていただきました。２ページ目の左上、（１）は計画的な改築や修繕による学校施設の長寿命化、施設機能の維持管理ということで、真ん中あたりの棒グラフ、年代別の延べ床面積を示させていただくと、昭和４０年代、５０年代建設の校舎がたくさんあるというところで、今後、３５年の大規模改修、７０年の改築ということを見据えると、数十年後からの建物の更新が集中する。この辺の財源確保についてはアセットマネジメント基金が創設されることから、こういったところを計画的に長期の計画をもって改善を図っていきたいというところでございます。

２つ目、多様な教育活動や新しい時代のニーズへの対応、これについては今年の猛暑でおわかりのとおり、空調の整備というのは急務になってございますが、こちらについてはＰＦＩ方式によって設置後の維持管理も含めて３２年度から供用を開始するということで計画を確実に進めさせていただきたいと考えています。３１年度については大規模校等、体を冷やすような環境が少し難しいところについては違った対策を考えていきたいと考えています。

２ページ目の右上、中学校給食については、現在、基本構想・基本計画の策定に取り組んでおるところでございまして、現在、給食センター１カ所で農業センターと協働して建設していくというところで考えてございます。スケジュールについては今年度中に計画を策定して、来年度から実施設計に入っていきたいと考えてございます。

あと、トイレの洋式化・ドライ化については、進捗率は洋式化４６．４％、体育館トイレの洋式化は必ず１カ所設置するというような形で進捗状況を示してございます。

３ページです。こちらも教育ニーズに対応したというところで、ＩＣＴ環境の整備については現状の市内のＩＣＴ環境の設置状況、コンピューターの台数であるとか、電子黒板やプロジェクターセットの台数をそこに示させていただいているとともに、これまで過去２年、３年取り組んできたことについて進捗をお示しさせていただいています。３１年度以降についてはタブレット端末の導入を進めて拡充を図っていきたいと考えてございます。

最後、安全・安心の教育環境の充実ということで、施設のバリアフリー化についてこれまでの状況、それから、中学校給食の導入に当たっては受け入れ校の整備に合わせて人が乗れるようなエレベーターの設置も考えたいということで進めてございます。

あと、右上が学校施設の防災機能と避難所としての機能向上というようなこともうたわれておりますので、このあたりの整備についてはさまざまな要望が、体育館の空調であるとか、要望がございますが、必要な施設整備内容の優先度を検討してどのように進めるか考えていきたいと思ってございます。

３番、小学校給食室の衛生強化、これについては衛生管理基準の改善に伴って改修は進めてきましたが、本年度のような猛暑であると調理室の室温の管理が大変難しくなっているということで、次年度は換気状況を変えることで何とか高温になることを防げないかということを検討してございますが、温度管理の方法については、今後調査、検討を行う必要があると考えてございます。

課題めいたことを示させていただきましたが、現状の取り組みと今後の方向性、課題に

ついては以上のとおりです。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

いかがでしょうか。ハード面、環境整備についてのご意見を頂戴できればと思います。

○松崎教育委員　これはちょっと素朴な質問なんですが、一番最初の話がありました「輝く　よっかいちの子ども」実現のためにのこの１枚の一番下の学びの環境の充実の部分の左右に何を進めるかという項目を書いていただいているんですが、これと今回の環境の充実に向けての項目があまり対応していないので、そのあたりはこのまま、これはどういうふうな感じで受け取ればよいでしょうか。

○廣瀬教育監　プログラミング教育は先ほどの新教育プログラムのところの論理的思考の向上のところに、今後の指導計画の部分でございますが、一定、今プログラミング教育についてはスクラッチという機能は導入して、現在、教員が指導できるような研修を進めておるというところで、あえてここの環境のところに大きく予算化をしてというようなところは示してございません。タブレット端末とプログラミング教育は活用が違うので、プログラミング教育は今までのパソコン室で指導していくというようなイメージでおりますので、あえてそういった機能、機種の導入とかというところは入ってございません。

それから、英語指導体制の充実についてはこれまで進めてきましたが、今、全ての小学校に英語専科教員の配置をすることができましたので、そこで書き加えてはおらないところです。教員研修については今後もしていきますが、ここは書いてもよかったのかなということは思っております。

○舘政策推進部長　ということで、プログラミング教育への対応はＩＣＴの中に含まれておるといえば含まれるけれども、ハード面ではそんなに大規模なものにはならんということですかね。

○廣瀬教育監　プログラミング教育という科目はないので、算数やら理科や総合的な学習の時間で進めていくということですので、ソフトの部分で対応。今後いろいろな機種が開発されて、ソフトを導入ということになればまた違ってくるのかなと思っていますけれども。

○松崎教育委員　これとこれとをセットにして出すのであればちょっと必要かなと思いましたので。

○舘政策推進部長　そうですね。もうできておるところはこっちに書いていないような感じになっていますね。そういうことでしょう。英語指導員のことはある程度いったので、

これからのところには書いていないけれどもという状況ですね。ちょっとまとめていくときに少し調整できるようにしますか、うまく、そういう疑問にならないように。

あと、いかがでしょうか。

○渡邉教育委員　３ページの一番下の小学校の給食室の食の安全確保のことなんですが、２行目までのところは具体的に３１年度完了と。この後の５行の部分というのは、それの中には、３１年度までに完了予定という話とは別立てですよね。調査、検討を行うと、何かここのところがちょっと心配がある。

○広瀬教育施設課長　平成１１年から３１年度までに行ってきた改修というのが、要は給食室で食材を扱う場合にクリーンエリアと汚染エリアということで確実に区分けをしなさいということで、各給食室の、今までは例えば調理室と食器が返ってきたところの洗浄室が同じ空間にございました。それをまず完全に分けるということで区分けを行ってきたのが、大きく目立ったところはそういうところが３１年度に完了すると。

逆に、そういった細かい部屋に細分化したことによって換気が非常にできなくなってきたということもございますし、今年なんかの猛暑ですと非常に調理室の温度が上がってくるということもあって、今は運営でいろいろ工夫を、食材を冷やしていただくとか、そういったことをやっていただいて今大きな事故には至ってございませんが、そういった食材を扱う部屋としての温度管理という意味で、今後、調理室側の温度管理というのが必要になってくるであろうということで、その辺を検討してまいりたいということで、３１年度までに完成する衛生強化改修とはまた別の要因で考えさせていただきたいということで上げさせていただきました。

以上です。

○舘政策推進部長　要は大規模な投資をしなきゃならん可能性のある内容なのできちっと全体を見て、次期総合計画の中にどれぐらい位置づけられるかというようなぐらいの、短期間でできるような問題じゃないということで、空調を設置すればそれで済むのか、構造も変えなきゃいけないのかも含めてということでしょうね。いずれにしても、これは大きな課題、次の課題ですね、温度管理。

○加藤教育委員　先ほども話が出ましたけど、イメージ図で上げてきたことについては、きちっとそれを受けた実施計画のようなものをぜひつくっていただきたいと思いますね。だから、今回は話題になっていませんが、教職員研修の充実も非常に今までとは違った視点で新プログラムなり、教員するなら四日市を実現する上での研修というのは当然出てま

いりますし、英語指導体制も一定いきましたけど、最終的にはこんな体制でこんなふうにいく。各学校の姿というのも当然描いてみえると思いますので、そんなのも後ろの具体案には盛り込んでいただいたほうがこの３本柱が非常によくわかるように、松崎委員のおっしゃるとおりで。

○舘政策推進部長　ちょっと３つ目が薄っぺらいですもんね。

○加藤教育委員　どうしてもトイレの洋式化の５０％もあるのなら、この図の中にもぜひ含めていただきたいか、シャボンのように丸囲いでどこかへ出していただけたほうがいいのかわかりませんので、ちょっとこのあたりはまた、粗っぽいというと失礼ですけど、少し調整が、まだ未調整の部分があるように思いますので、ぜひお願いします。予算があることですから、教育だけで考えて書き込んでいくと、そういう問題もありますから。

○舘政策推進部長　そうですね。予算部局とも関係しますが。

○葛西教育長　あと、施設なんですけれども、市でアセットマネジメント基金、これを創設していただいて、１７年後ですか、２０３５年以降の対応についてもきちっと対応していただくと。

一方、教育委員会でもこの３０年度と３１年度で四日市の学校施設長寿命化計画、これも策定しております。これは何かといえば、各学校の老朽化の状況の把握を行い、診断をして、各学校施設の改築だとか、長寿命化だとか、修繕の費用、優先順位、そういうものについても検討していく、それの素材となる、そういう材料をしっかり集めて、そして、検討していくと、そういうものもこの２年間でやっていくことになっております。

ですから、今、昭和４０年代の校舎については大規模改修をずっと進めてきました。これは４９年度築まで来ました。そうすると、もう来年、再来年から５０年度にできたものを大規模改修していかなきゃならないと。それのペースがすごく求められてくるようなことになろうかなと思います。非常に５０年代に建てられた建物が多いですから、まずは大規模改修で老朽化対策、長寿命化をして、それから改築というふうなことになっていくのかなと思っています。だから、そのあたりもしっかりと教育委員会としても見ていかなきゃならないなと思っています。

もう一つはＩＣＴ環境ですけれども、タブレットの導入については、それこそ５年前、６年前からずっと検討をしてきました。ただ、タブレットの機能の成熟度、それから、授業の中でどのように使うと効果的か、それから、導入台数はどの程度かと、そういうことで議論して、まだしばらく早いということで、来年度からようやくタブレットを入れてい

ってもいいだろうと、そういう判断をいただいたわけですね。これが去年の推進計画の判断ですけれども、これをこれから３１年度の当初予算を編成していく、その中で今市長がくれぐれ、今までもしっかりおっしゃっていただいた教育するなら四日市と、子どもの教育環境をよくしていくと、そういう観点で目に見えてよくすると、そういう見方からいくと、タブレットの設置台数、あるいは小学校と中学校を今は別々に入れていくという計画になっていますけれども、これが３１年度でもう第３次推進計画が終わってくると。そうすると、当時立てたときには３１年度で小学校、３２年度で中学校が一応の配備という、そういう考え方をしていたと。ところが、今年１年早まった。これをどう考えるのか。それから、導入する台数についてインパクトという点でどうなのかというふうなことも今後考えていただければなと。非常にこれは子どもにとって有益なことかなと思いますので、それもまたお願いしたいなと思っています。

○舘政策推進部長　市長、２点目はどうですか。

○森市長　ＩＣＴですよね。これ、私、十分わかっていないところがあるので確認したいんですけど、平成２８年度に中学校でデジタル教科書を導入して、これはパソコン室で数学と英語を勉強しているということですか。一部かもわからないですけど。

○川邉教育支援課長　デジタル教科書は電子黒板に映して教室でやっているタイプでございます。

○森市長　みんなの教科書ということでやっているんですか。だから、あくまでも中学校のパソコンは技術でしか使っていないということですか、まだ今は。

○川邉教育支援課長　中心は技術ですが、他教科でも調べ学習等で活用はされております。あと、英語であるとか、いろんな教科で使われてはいますが、教科としてコンピューターを主に使うのは技術でやると。

○森市長　今回、タブレットということなので、ぜひそこのすみ分けをしっかりとしてもらって、パソコンも今画面が外せるパソコンだと聞いているので、それもだんだん要らなくなりますよね、タブレットが。そういうところも整理してもらって、タブレットの機能を十分に享受できるような環境に整えたいですよね。

○舘政策推進部長　少しそういう検討を、金の算段もありますけど、タブレットの時期と台数、少し議論できるようにしたほうがいいですね。裏づけが要りますけど。

○加藤教育委員　台数ってどれぐらい考えてもらっておるの。

○舘政策推進部長　今は４人に１台というのができますね。

○葛西教育長　３１年度から４人に１台と。

○加藤教育委員　全校生徒に対してですか。

○葛西教育長　各学校１０台です。

○森市長　それもちょっと難しさはありますよね。

○舘政策推進部長　それが小学校、中学校で３１、３２年度の配備予定やったんですね。

○葛西教育長　そういう予定やったんですね、当初の予定は。

○加藤教育委員　１０台では寂しいところもありますね。

○森市長　近隣ではいなべ市が全部入れましたもんね。

○葛西教育長　小学校５、６年生でしたか。５、６年生に１人１台ということで。

○加藤教育委員　学校のＷｉ―Ｆｉ環境で使える。ＳＩＭカードを入れるとか、そんなことはないんですよね。

○川邉教育支援課長　タブレットを使えるようにするために、去年、中学校を入れたんですが、今年、小学校にワゴンセットを入れます。ワゴンセットにＷｉ―Ｆｉのアンテナを立てて、それを教室へ運べばタブレットを使えるようになるという形で。

○加藤教育委員　それは社会見学に行って港で使ったらどうなるんですか。

○川邉教育支援課長　港ではタブレットは使えますが、Ｗｉ―Ｆｉの電波を飛ばすことはできません。教室へ戻ってきてから写したものを見るということは可能です、やろうと思えば。

○舘政策推進部長　Ｗｉ―Ｆｉとはつながらないですね。

○加藤教育委員　だから、そんなに維持管理費は要らないんですよね、タブレットを導入しても。本来のタブレットが持っておる機能だけでいけるわけでしょう。

○川邉教育支援課長　それはできる。

○加藤教育委員　だから、２万円のタブレットを買っても、あと１万付加価値をつけないと使えないということではないので、台数だけの部分で予算化は見込めるわけですね。

○葛西教育長　そうですけれども、まず一番大事なことは導入の時期だと見きわめていただいたと。導入するという決断をしてもらったのが一番ポイントかなと思っています。あとはそのときのいろんな調整だとか、あるいはどうインパクトを出していくかとか、そういうことではまだこれから議論ができるかなと。

○舘政策推進部長　予算議論もあったと思います。一方で、空調もやらないといけない、学校給食もあるやないかという中で少し予算は控えられた経緯があったと思いますので、

来年の予算をしていく中で一度、今日、総合教育会議の中でタブレットについての議論があったということを受けて今後調整をしていければと。

○森市長　いずれ広がってくるのであれば、それまでの予算措置をするだけですから、経常的なコストはいずれ発生しますので。

○舘政策推進部長　今日、総合教育会議の中で議論があったということでとめていきたいと思います。

それと、改修計画は次期総合計画が今策定中なので、前回と同様に１０カ年の改修計画をぜひ立てて議論できればなと思いますので、またよろしくお願いします。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。ご協力によりまして大体時間内に終わりました。

５　その他

○舘政策推進部長　最後、その他なんですけれども、次回でございますが、先ほど来申しておりますように、今ちょうど次期総合計画を策定中でございます。今、まだ議論が始まったばかりでございまして、案ができてくるのが年度末、あるいは年度明けぐらいになってこようかと思います。まず素案ですね。そのころにぜひ総合教育会議の場でも、特に教育にかかわるところ、子育てにかかわるようなところをご議論いただければと思いますので、ある程度それができ上がった段階でまたお集まりいただいて、それを中心にご議論いただければと思いますので、また時期については事務局から調整をさせていただきますので、そのころ、大体、年度末、あるいは年度明けぐらいというイメージで思っていただければと思っております。

○森市長　教育委員は教育委員会会議で、また別で総合計画を議論するんですか。ここだけということはないですよね。

○葛西教育長　もちろんそれはここだけではなくて、教育委員会会議の中でもこういう方向性だとか、こういう政策だとか、そういうのはもちろん出していきます。

○舘政策推進部長　わかりました。じゃ、そういう前提の中でここでやるべきことを絞り込んでやっていくわけですね。わかりました。じゃ、そういうことでまた後日ご連絡をさせていただきます。

ほかにその他、ございませんか、この際ということで。よろしいでしょうか。

それじゃ、これで本日は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後　０時　０分　閉会